

橋市道場の歴史



道場

— 日本古来の武道の伝承と青少年の育成

二代谷藤市助は、

昭和15年木伏に厨川尚武館を地区有志と計り建築する。

盛岡藩古武道諸賞流和、無辺流棒術、なぎなたは、坂上田村麻呂（田村利宗）を初代として1200年を越す古武道として現在69代に及び、その歴史の伝承は昭和54年盛岡市無形文化財第一号として東北初の武道認定を受ける。

現在、橋市道場内にて継承されている。



厨川尚武館

昭和15年 谷藤市助（二代橋市）が中心となり、南部藩・諸賞流・無辺流の厨川尚武館を建設。古武道の伝承に寄与した。



米内光政大將、及川古四郎（海軍大將）道場訪問落成を祝う（共に門下生）

盛岡市指定無形文化財(古武道)

1. 名称 諸賞流「和」、無辺流「棒術」
2. 所在地 夕陽瀬町9-26 新明館内
3. 指定年月日 昭和54年8月8日
4. 説明

盛岡藩においては武術各流派が隆盛をきめ、藩内に伝承された古武道は六十余流派にも及んだといわれる。そのうち、よく伝承相伝して今日もなおその秘術を伝承しているのが、諸賞流「和」および無辺流「棒術」である。諸賞流「和」の起源は古く、初めは寛文流、ついで観世流、つぎに諸賞流と称せられ、盛岡藩には近世初期に岡 武兵衛重直によって伝えられた。それは、実践のあらゆる要素を想定した非常に激しい武術で、殊に対当と定当でが主体の「当て身」技の威力はすさまじく、藩主から他流試合を禁止され、藩外不出の強固な命ぜられたといわれる。

無辺流は、近世初期に高橋亦右衛門勝久によって創始された。棒術・長刀術・太刀術・小太刀術などを用いた極めて実践的な武術である。

諸賞流「和」は、「別伝 棒術」を、無辺流「棒術」は「長刀術」を加え、盛岡藩以来の古武道を今日に継承している。

5. 所有者 南部藩古武道保存会
平成15年12月

盛岡市教育委員会



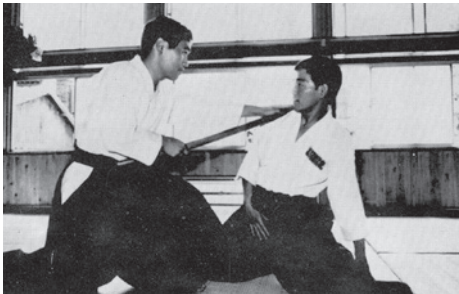
1,200年の伝承を守る南部藩古武道を公に紹介し、昭和54年盛岡市無形文化財指定第1号をうける。



観音湯(銭湯)倉庫を改造して、県内初の剣道場を開設



道場開き立会い 当時安藤五郎先生(70才)、並岡教士(54才)



諸賞流和術



諸賞流裏の形

三代谷藤新吉は、

昭和40年3月県下初の私設剣道場、橋市道場を開設する。

昭和44年、岩手国体の為、道路拡巾に伴い総業120年の歴史を刻んだ橋市商家を解体し、新道場の2階の木組みとして再建する。

更に新幹線開通による盛岡駅前の区画整理に伴い、昭和53年道場が曳家移転改築される。



昭和40年3月橋市道場開設 岩手県初の剣道個人道場



開設当時の橋市道場



現在の橋市道場



岩手国体の年に日橋市店舗を解体し、道場2階に移設



第3次道場移設拡張工事（新幹線開通のため）曳家工事



道場移設風景



道場開き



道場内の蔵

橋市道場を舞台にするスポーツ根性マンガ「六三四の剣」が「少年サンデー」に連載される



四代谷藤文明は

平成22年橋市道場45周年にあたり、旧講談社野間道場床板移設。

旧講談社野間道場は講談社野間清治初代社長が大正14年に東京都文京区音羽に剣道場を開設し剣士の「聖地」と呼ばれるほどの歴史と伝統のある道場である。

ご縁があり、旧野間道場の床板（7メートル）110枚を移設する。

当時の野間道場の造りを出来る限り忠実に復元している。



仕上げ確認をする谷藤館長



旧野間道場 上段の間



移設された床板



移設竣工の橋市道場



元朝稽古



年末恒例のもちつき大会



北奥羽少年剣道大会 優勝



県下年間優勝旗を囲んで